

令和4年度 メディア説明会

目 次

1. 富山県内の河川の特性	P. 1
2. 危険を伝える情報	P.14
3. 防災情報の入手方法	P.18
4. 合同記者会見の実施	P.23
5. 道路情報：事前通行規制区間のお知らせ	P.33

令和4年 8月2日

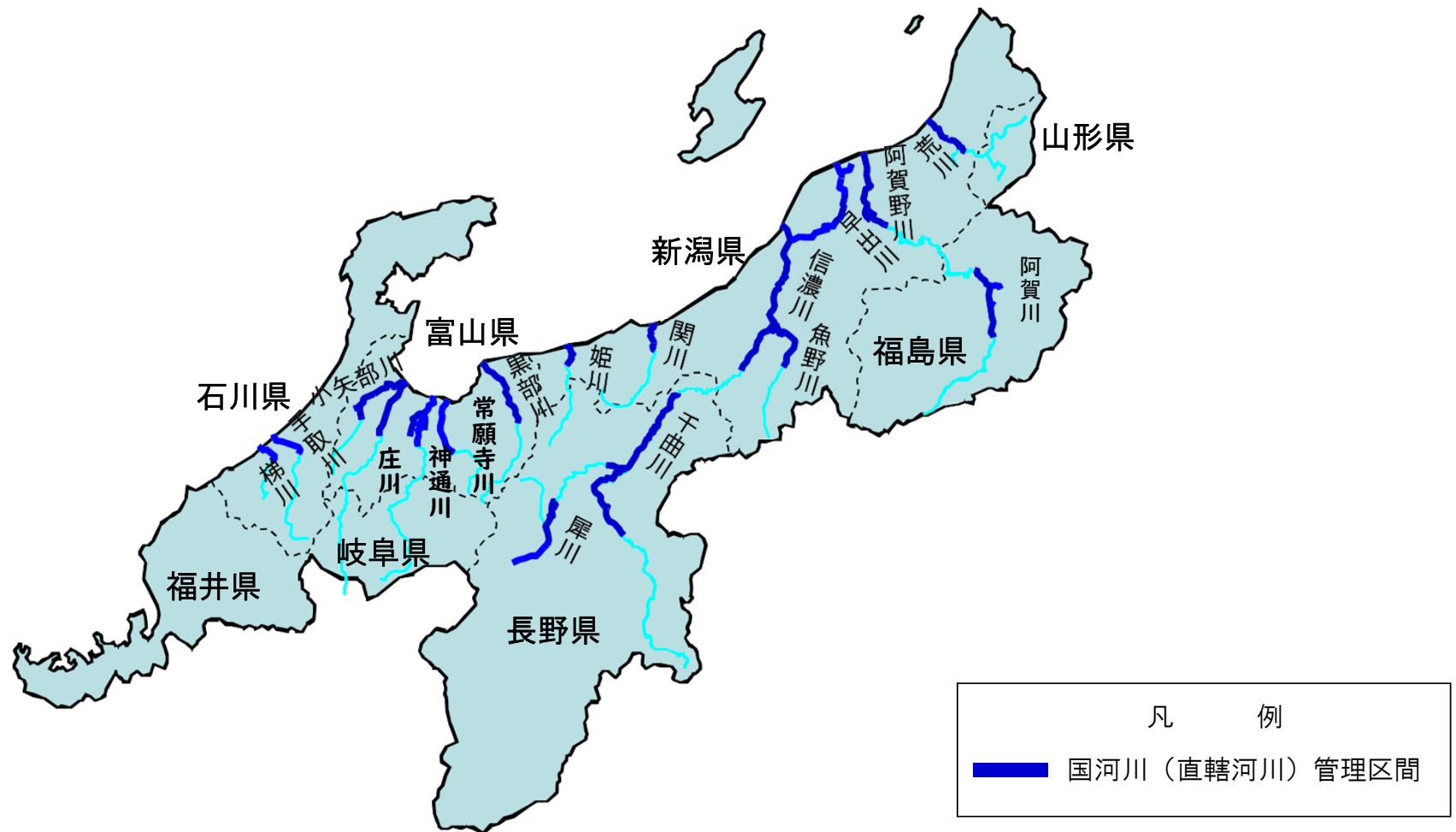
富山河川国道事務所

1. 富山県内の河川の特徴

北陸地方整備局管内図

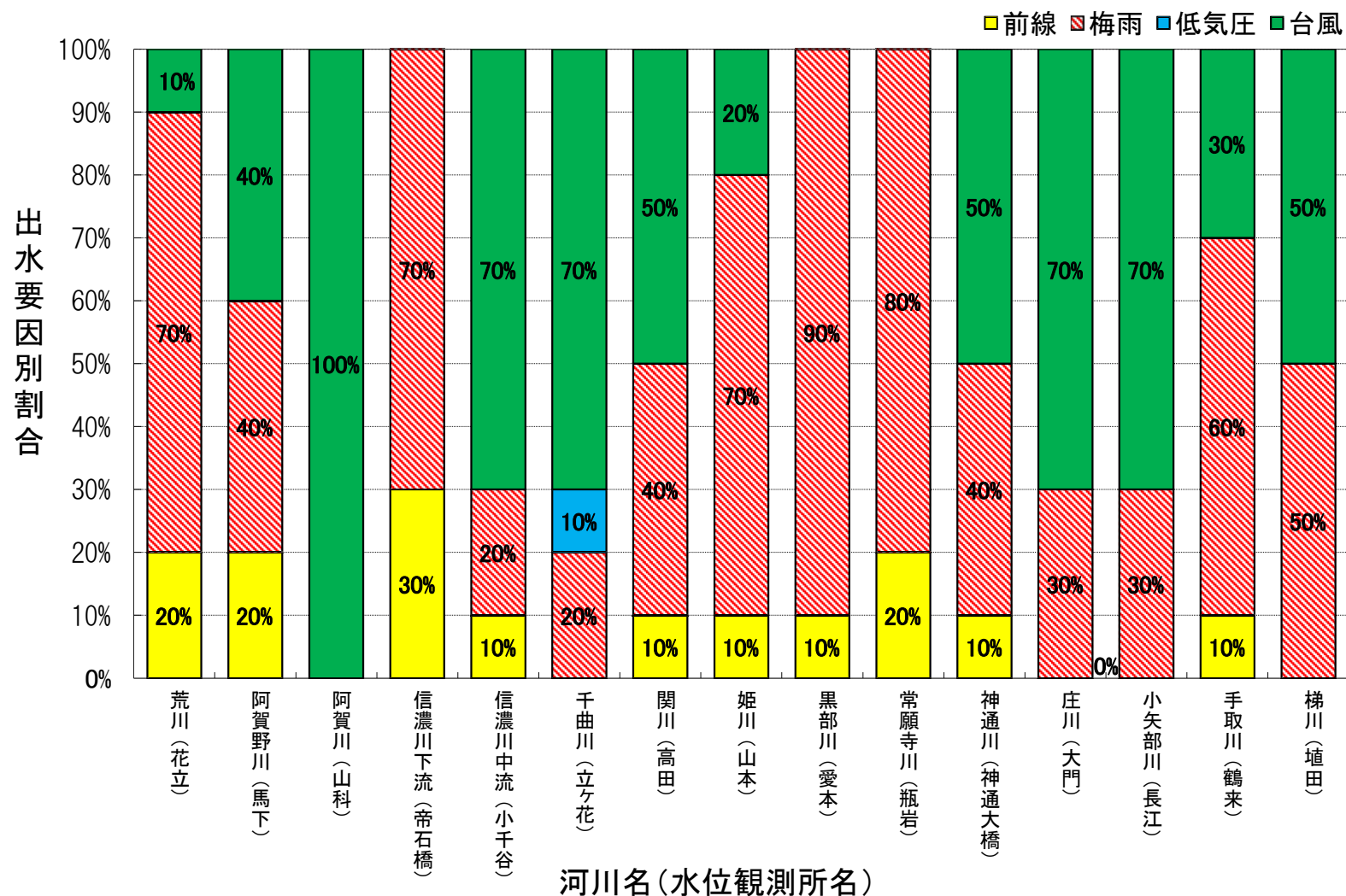
～国管理河川～

■北陸地方整備局管内12水系の国管理河川



近年の北陸地方の気象・出水(特徴)

- 荒川、信濃川下流、姫川、黒部川、常願寺川・・・70%以上梅雨前線
- 阿賀川、信濃川中流、千曲川、庄川、小矢部川・・・70%以上台風・低気圧性
- 阿賀野川、関川、神通川、梯川・・・梅雨前線と台風で80%以上を占める。



常願寺川 概要

- ・常願寺川はその源を北ノ俣岳(標高2,661m)に発し、山間部を流下し、富山平野を形成する扇状地に出て北流し、富山市東部を経て日本海に注ぐ。(図1-1)
- ・河床勾配は山地部で約1/30、扇状地部で約1/100と我が国屈指の急流河川。(図1-2)
- ・常願寺川が氾濫した場合は、拡散型の氾濫形態となり、富山市をはじめ、広範囲に甚大な被害が及ぶ。(図1-3)

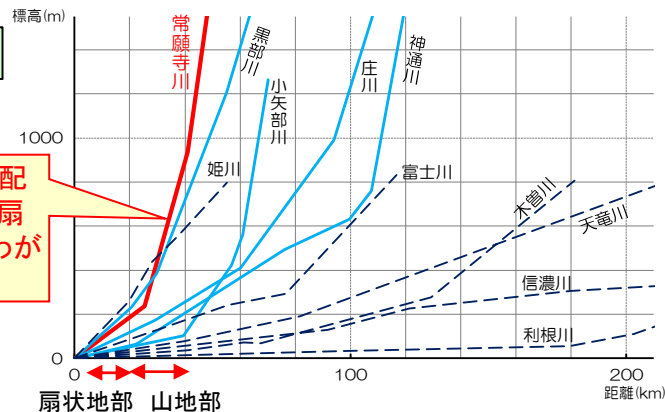
- きたのまただけ
- 水 源: 北ノ俣岳(標高2,661m)
- 流域面積: 368km² ○流路延長: 56km
- 大臣管理区間: 21.5km ○流域関係市町: 1市1町 富山市、立山町
- 流域内人口: 約2.8万人 ○想定氾濫区域人口: 約26.6万人
- 年平均降水量: 富山 約2,300mm(S39~H19年) 上市 約3,000mm(S54~H19年)

常願寺川流域図(図1-1)



河床勾配(図1-2)

常願寺川は、河床勾配が山地部で約1/30、扇状地部で約1/100とわが国屈指の急流河川



常願寺川 主な災害

- ・安政5年(1858年)の飛越地震により、上流の立山カルデラを形成する^{とんびやま}鳶山一帯が崩落し河道閉塞が発生。その後河道閉塞が決壊し、大量の土砂とともに洪水流が下流域へ流出して、河川が荒廃した。(表1、図1)
- ・昭和44年8月洪水は、瓶岩地点で $3,980\text{m}^3/\text{s}$ の観測史上最大流量を記録。(表1、図2)

主要洪水一覧表(表1)

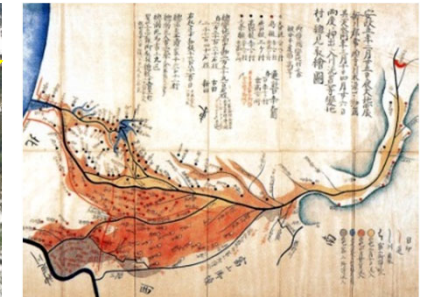
発生年月日 (発生要因)	日置、瓶岩 地点実測流量	被災状況
安政 5年 4月 (地震)	-	・2月25日の大地震による水源地の大鳶・小鳶の山峰が崩壊し川筋を塞ぎ、3月13日溢水、4月26日遂に大決壊 ・死者140人、負傷者8,945人、家屋流出1,603戸
大正 3年 8月 (台風)	不明	・瓶岩量水標6.4m ・死者1人、負傷者1人、堤防の破堤2,850m、堤防の欠壊3,450m、氾濫面積5,493ha、田畑流失埋没1,020ha、宅地流失埋没180ha、浸水家屋910戸、橋梁流失2橋
大正11年 7月 (台風)	不明	・常西用水の堤防被害8,900m、堆積土砂の用水流入量25,000坪、白岩砂防えん堤破壊
昭和 9年 7月 (梅雨前線)	ひおき 日置流量: $2,240\text{m}^3/\text{s}$	・堤防の侵食等10箇所 ・田畑流失4.9ha
昭和27年 7月 (梅雨前線)	かめいわ 瓶岩流量: $2,200\text{m}^3/\text{s}$	・堤防破堤335m、堤防の侵食等8箇所 ・田畑流失518ha、家屋浸水床上329戸、床下893戸
昭和44年 8月 (前線)	かめいわ 瓶岩流量: $3,980\text{m}^3/\text{s}$	・堤防破堤150m ・堤防の侵食、護岸・根固の流出、水制の倒壊等16箇所
平成7年 7月 (梅雨前線)	かめいわ 瓶岩流量: $1,440\text{m}^3/\text{s}$	・根固の流出、河岸侵食等5箇所 (最大被災延長400m、最大侵食幅200m)
平成10年 8月 (梅雨前線)	かめいわ 瓶岩流量: $1,720\text{m}^3/\text{s}$	・護岸・根固の流失、河岸侵食等5箇所 (最大被災延長240m、最大侵食幅40m)

大鳶崩れ(図1)

- 安政5年(1858)の飛越地震
- ・上流の立山カルデラ内で大崩壊により発生した河道閉塞が崩壊、大量の土石流による大災害が発生



大鳶崩れ跡



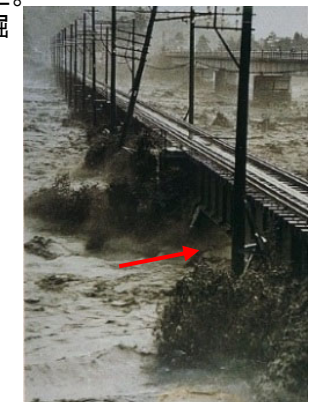
安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図「里方図」

主要洪水時の状況(図2)

- 昭和44年8月11日洪水
- ・前線停滞により県東部で集中豪雨が発生。
- ・土石流を含む激しい洪水流が堤防を洗掘し、計画高水位以下で破堤が発生。



岩嶺野地先破堤状況



上滝富山地方鉄道橋被災

神通川 概要

- ・神通川は、その源を岐阜県高山市、川上岳（標高1,626m）に発し、岐阜県内で小鳥川等を合わせて北流し、岐阜、富山県境で高原川を合わせ、富山県内で井田川、熊野川を合わせて日本海に注ぐ。（図1-1、図1-2）
- ・河床勾配は上流部、中流部で約1/20～1/250、河口部は緩やかになっているものの、我が国屈指の急流河川となっている。（図1-3）
- ・神通川下流域には県都富山市が位置しており、ひとたび氾濫すると被害は甚大となる。（図1-4）

水 源 : 川上岳(標高1,626m)

流 域 面 積 : 2,720km²

幹 川 流 路 延 長 : 120km

直 轄 管 理 区 間 : 48.1km

流 域 関 係 市 町 村 : 4市
[富山県] 富山市、南砺市
[岐阜県] 高山市、飛騨市

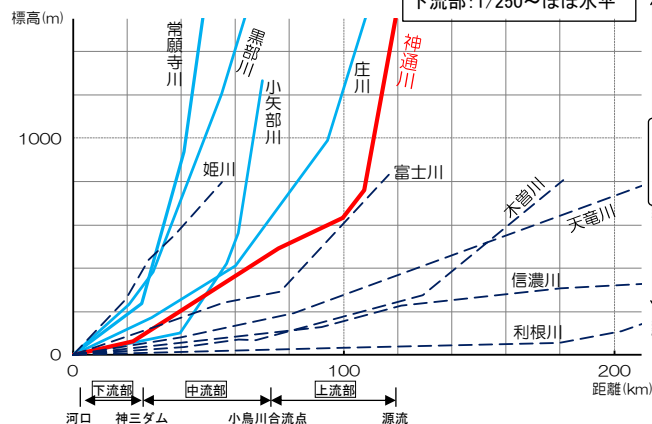
流 域 内 人 口 : 約38.5万人

想 定 氾 濫 区 域 内 人 口 : 約18.5万人

年 平 均 降 水 量 : 富山(気象庁) 約2,400mm
高山(気象庁) 約1,700mm

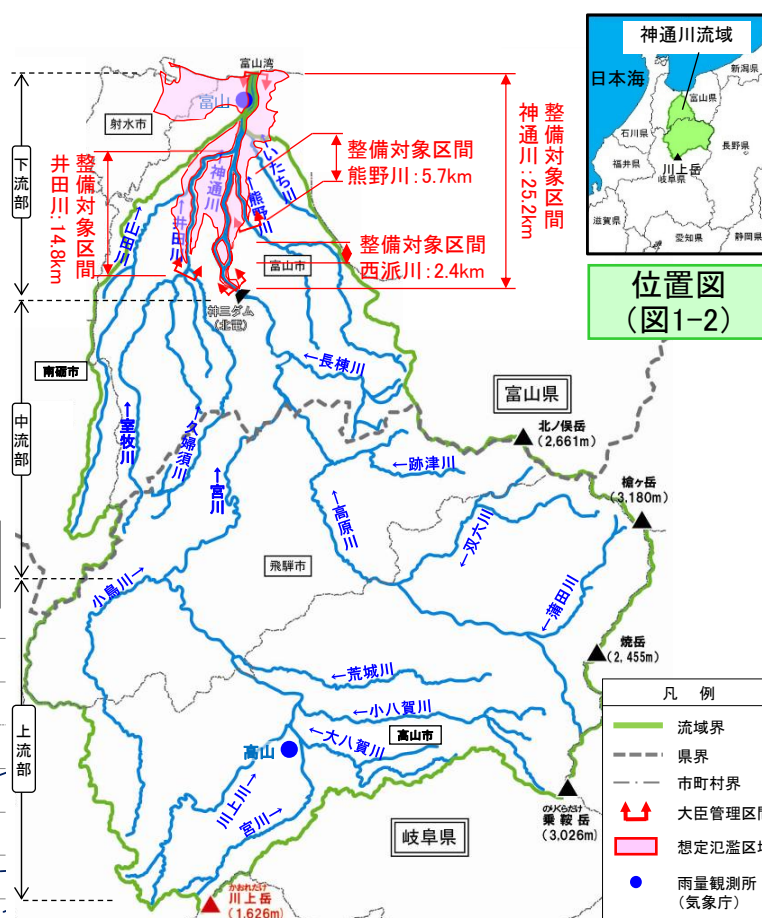
(平成3年～平成28年:年平均値)

河床勾配(図1-3)



【河床勾配】

上流部: 1/20~1/150
中流部: 1/150~1/250
下流部: 1/250~ほぼ水平



流域图(图1-1)



想定氾濫区域の状況(図1-4)

神通川 主な災害

- ・流域において発生した洪水の降雨要因は、台風によるものが多い。
- ・急流河川特有の洪水流の強大なエネルギーによって、堤防の洗掘や河岸侵食等の被害が発生。(写真1)

主要洪水一覧表

発生年月日 (原因)	神通大橋 地点流量	被害状況
大正3年8月 (豪雨)	不明	死者54名、行方不明者60名、全半壊流失家屋328戸、 浸水家屋14,365戸(富山県) 死者39名、負傷者9名、全半壊 流失家屋68戸、浸水家屋111戸(岐阜県) 橋梁流失数箇所
大正9年6月 (豪雨)	不明	床上浸水791戸、床下浸水860戸(富山県) 死者22名、 負傷者5名、全半壊流失家屋191戸、浸水家屋290戸(岐阜県) 橋梁流失数箇所
昭和20年10月 (阿久根台風)	不明	床上浸水6戸、床下浸水234戸(富山県)
昭和28年9月 (台風13号)	不明	死者6名、行方不明2名、負傷者6名、全壊家屋1戸、半壊家屋 46戸、流失家屋5戸、一部破壊172戸、床上浸水3,474戸、 床下浸水5,712戸、浸水面積3,800ha、(富山県)
昭和33年7月 (梅雨前線)	3,896m ³ /s	全壊家屋1戸、半壊家屋1戸、浸水家屋779戸(富山県) 流失家屋2戸、家屋浸水3戸(岐阜県)、橋梁流失4箇所
昭和39年7月 (豪雨)	3,237m ³ /s	半壊家屋48戸、床下浸水446戸(富山県)
昭和40年9月 (台風24号)	3,297m ³ /s	負傷者1名、一部破壊3戸、床下浸水305戸 橋梁流失2箇所(富山県)
昭和58年9月 (台風10号)	5,643m ³ /s	床上浸水27戸、床下浸水94戸(岐阜県)
平成11年9月 (台風16号)	3,719m ³ /s	床上浸水2戸、床下浸水13戸(富山県) 全壊流失家屋26戸、 半壊家屋23戸、床上浸水52戸、床下浸水200戸(岐阜県)
平成16年10月 (台風23号)	6,413m ³ /s	床上浸水25戸、床下浸水141戸(富山県) 全壊家屋7戸、 半壊家屋21戸、床上浸水644戸、床下浸水719戸、 支川(川上川)決壊3箇所、瓜巣川他越水(岐阜県)
平成18年7月 (梅雨前線)	4,536m ³ /s	床下浸水1戸(富山県)、床上浸水1戸(岐阜県)
平成26年8月 (前線)	4,263m ³ /s	床上浸水22戸、床下浸水45戸(岐阜県)
平成30年7月 (梅雨前線)	4,866m ³ /s	神通川左岸22.5kにおいて、堤防約L=100mが欠損

大正3年8月洪水



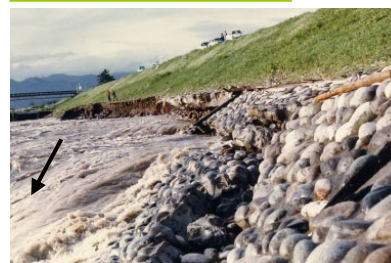
大正3年8月洪水の様子

昭和33年7月洪水



平湯川村上橋流失

昭和58年9月洪水



富山市成子地先

平成11年9月洪水



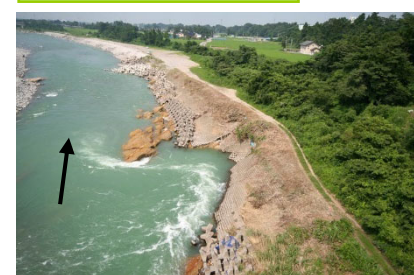
富山市八尾町西神通地先

平成16年10月洪水



富山市塩地先

平成18年7月洪水



富山市塩地先

主要洪水時の状況(写真1)

庄川 概要

(1) 流域の概要

- 庄川は、その源を岐阜県高山市の烏帽子岳と山中峠に発し、富山県西部を流下し日本海に注ぐ流域面積1,189km²、幹川流路延長115kmの1級河川である。
- 氾濫区域となる下流部は庄川用水合口ダム付近を扇頂とする扇状地で、富山県内一の穀倉地帯である砺波平野および射水平野、富山県第2の都市である高岡市街地を貫流する。
- 河床勾配は、上・中流部で約1/100、下流部で約1/200とわが国屈指の急流河川となっている。

[流域図]



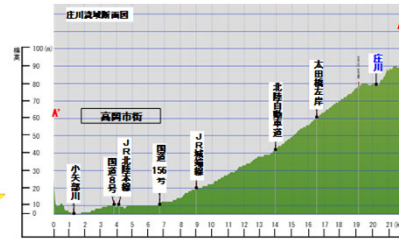
[庄川流域位置図]



[庄川流域航空写真]



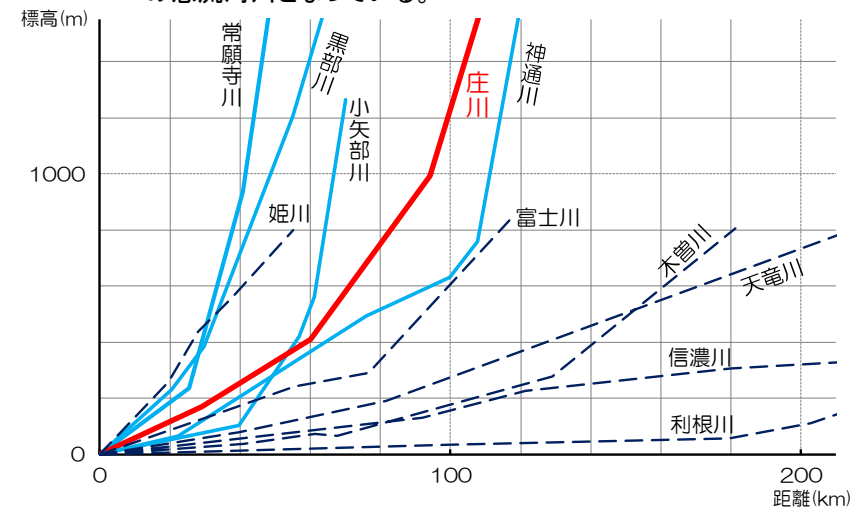
[庄川流域断面図] (写真(上)A-A'断面図)



[流域諸元]

水 源 : 烏帽子岳(標高1,625m)、山中峠(標高1,375m)
 流 域 面 積 : 1189km²
 幹 川 流 路 延 長 : 115km
 流 域 内 市 町 村 : 7市1村
 流 域 市 町 人 口 : 約4.6万人
 [富山県] 高岡市、射水市、富山市、砺波市、南砺市
 [岐阜県] 郡上市、高山市、白川村
 想定氾濫区域総人口 : 約29.7万人

[河床勾配] 河床勾配は、上・中流部で約1/100、下流部で約1/200とわが国屈指の急流河川となっている。



庄川 主な災害

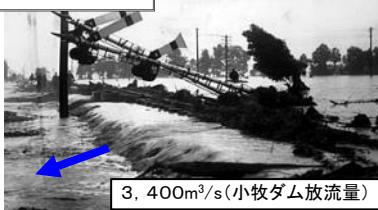
(2) 主要な災害

- 庄川流域は、梅雨、台風、冬期の降雪と年間を通じて降水量が豊富である。過去の庄川流域における洪水の多くは、台風に起因するものが多くみられる。
- 庄川流域において発生した洪水は、昭和9年、34年、36年、50年、51年、58年、60年と頻繁に発生し、平成16年には観測史上最高の水位を記録し、一部地域には避難勧告が発令された。

[主要洪水一覧表]				
発生年月日	発生要因	流量	被害状況	
昭和9年7月	梅雨前線	3,361m ³ /s(小牧推定)	浅井村(現射水市)にて堤防決壊 死者20名、負傷者240名、家屋流失94棟、民家破損5,418棟、家屋浸水4,009棟、 田畑冠水(田3,986ha、畑182ha)	
昭和34年9月	台風15号	1,906m ³ /s(大門実績)	伊勢湾台風による洪水	
昭和36年9月	台風18号	1,457 m ³ /s(大門実績)	第二室戸台風による洪水	
昭和50年8月	台風6号	1,289 m ³ /s(大門実績)	家屋浸水13棟、農地宅地1ha浸水	
昭和51年9月	台風17号	2,646 m ³ /s(大門実績)	加越能鉄道庄川橋梁落橋 家屋流失8棟、家屋浸水42棟、農地宅地11ha浸水	
昭和58年9月	台風10号	1,674 m ³ /s(大門実績)	家屋浸水15棟、農地宅地14ha浸水	
昭和60年6月	梅雨前線	1,210 m ³ /s(大門実績)	床下浸水9棟、農地宅地16ha浸水	
平成16年10月	台風23号	3,396 m ³ /s(大門実績)	1,400世帯に避難勧告が発令(高岡市、射水市)、【観測史上第1位の流量】	
平成30年7月	台風7号・前線	2,198 m ³ /s(大門実績)	【観測史上第3位の流量】	

[主な洪水被害]

S9.7洪水



3,400m³/s(小牧ダム放流量)

(左右岸数箇所堤防破堤)

人的被害(人)		
死者	行方不明者	負傷者
20	不明	240

浸水被害		
家屋(戸)		面積(ha)
流失	浸水	
94	4,009	4,168

S51.9洪水



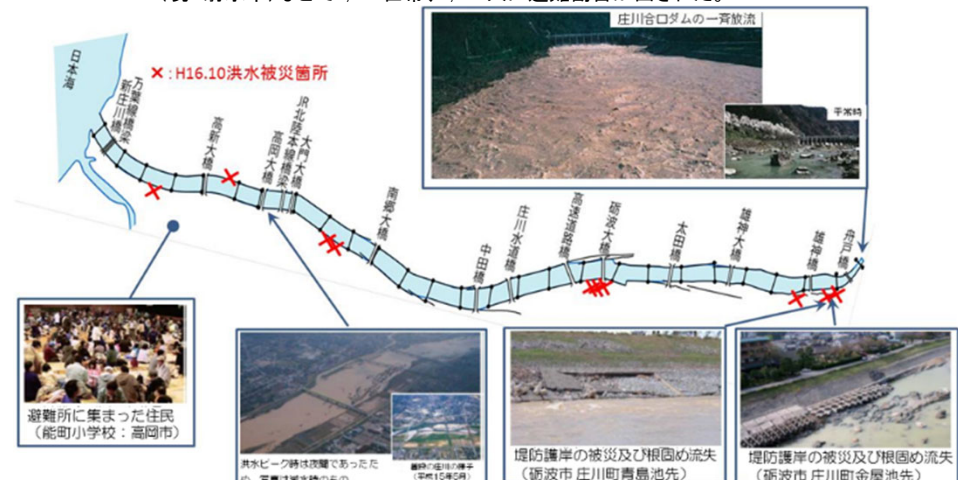
3,000m³/s(大門地点:ダムなし流量)

人的被害(人)		
死者	行方不明者	負傷者
0	0	0

浸水被害		
家屋(戸)		面積(ha)
流失	浸水	
8	42	11

H16.10洪水

- 大門地点では、危険水位7.01mに対して、観測史上最大の水位7.68m(流量3,396m³/s)を記録した。堤防や護岸に多大な被害があったほか、高岡市、新湊市(現射水市)、大門町(現射水市)などで1,400世帯、2,840人に避難勧告が出された。



小矢部川 主な災害

主な災害

○戦後の主な洪水として、昭和28年(1953年)、平成2年(1990年)、平成10年(1998年)、平成20年(2008年)などに大きな洪水が発生し浸水被害が発生している。(図1、図2)

[主要洪水一覽表] (図1)

※流量は、津沢、長江地点の実績流量(観測値)

発生年月	発生要因	実績流量		被害状況
		津沢	長江	
昭和8年(1933年)7月25日	前線	不明		・堤防決壊31箇所、橋梁流失8箇所、浸水家屋100戸余
昭和28年(1953年) 9月25日～26日	台風	1,300m³/s	909m³/s	・堤防の決壊34箇所 ・死者6名、行方不明者2名、負傷者6名、全壊家屋1戸、半壊家屋46戸、流失家屋5戸、一部破損172戸 ・浸水面積3,800ha、家屋浸水床上3,474戸、床下5,712戸
昭和38年(1963年)6月4日	台風	410m³/s	1,070m³/s	・左右岸数箇所堤防の決壊 ・死者2名、負傷者2名、半壊家屋1戸、 ・浸水面積4,900ha、家屋浸水床上111戸、床下983戸
昭和39年(1964年) 7月17日～18日	前線	1,210m³/s	1,270m³/s	・全壊・流失家屋2戸、半壊・床上浸水1,859戸、床下浸水4,411戸 ・浸水面積4,220ha
昭和40年(1965年) 9月17日～18日	台風	1,190m³/s	1,580m³/s	・家屋や田畑の浸水多数
平成2年(1990年)9月20日	台風	950m³/s	1,260m³/s	・床下浸水29戸、浸水面積96ha
平成10年(1998年) 9月21日～22日	台風	950m³/s	1,600m³/s	・住宅半壊1戸、浸水面積267ha、家屋浸水床上52戸、床下674戸
平成20年(2008年)7月28日	前線	1,510m³/s	1,310m³/s	・住宅全壊1戸、半壊2戸、家屋浸水床上92戸、床下273戸
平成29年(2017年) 10月22日～23日	台風	1,020m³/s	1,290m³/s	・浸水被害なし

[主な洪水被害] (図.2)



昭和28年9月洪水



平成10年9月洪水



平成20年7月洪水



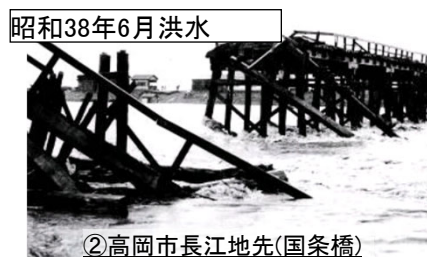
洪水



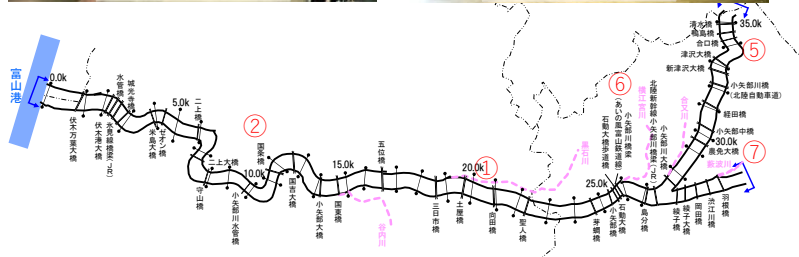
小矢部川津沢 H20.7.28 8時40分



⑦ 蕨波川の浸水状況



昭和38年6月洪水



黒部川 主な災害

- ・戦後の主な洪水は、昭和27年7月、昭和44年8月に大きな洪水が発生し、流域内は甚大な被害に見舞われた。
- ・昭和44年8月洪水では、愛本地点では約 $5,700\text{m}^3/\text{s}$ の観測史上最大流量を記録。
- ・最近では、平成7年7月洪水において河岸侵食や上流部にて土砂災害などの被害が発生した。(表1-1、図1-4)

主要洪水一覧表(表1-1)

発生年月日 (発生要因)	流量 (愛本)	被災状況
大正元年7月22日[1912年] (集中豪雨)	—	堤防の決壊: 10箇所、浸水面積: 1,078ha、家屋全半壊: 147戸、家屋浸水: 1,078戸
大正 3年 5月22日、 [1914年] 7月26日、 8月13日、 (集中豪雨及び台風)	—	堤防の破損・欠壊: 30箇所 浸水面積: 85ha、家屋浸水: 40戸
昭和9年7月12日 [1934年] (梅雨前線)	約 $3,100\text{m}^3/\text{s}$	堤防の決壊: 4箇所 浸水面積: 約1,562ha 家屋全半壊: 212戸 家屋浸水(床上): 621戸 家屋浸水(床下): 252戸
昭和27年7月1日 [1952年] (梅雨前線)	約 $4,900\text{m}^3/\text{s}$	堤防の決壊: 6箇所・欠壊: 7箇所 浸水面積: 約4,000ha 家屋浸水(床上): 37戸 家屋浸水(床下): 88戸
昭和32年7月9日 [1957年] (梅雨前線)	約 $3,600\text{m}^3/\text{s}$	堤防欠壊: 1箇所・水制破損: 4箇所 護岸破損: 1箇所
昭和44年8月11日 [1969年] (前線)	約 $5,700\text{m}^3/\text{s}$	堤防の決壊: 3箇所 護岸欠壊: 3箇所・水制流出: 2箇所 浸水面積: 約1,050ha 家屋全半壊: 7戸 家屋浸水(床上): 436戸 家屋浸水(床下): 410戸 愛本堰堤損傷
平成7年7月11日 [1995年] (梅雨前線)	約 $2,400\text{m}^3/\text{s}$	堤防・護岸欠壊: 6箇所 中流域で約 $600\text{万}\text{m}^3$ 土砂堆積 発電所・観光施設被害
平成8年6月25日 [1996年] (梅雨前線)	約 $2,200\text{m}^3/\text{s}$	堤防・護岸欠壊: 3箇所

主要洪水時の状況(図1-4)

●昭和27年7月洪水

- ・梅雨前線による集中豪雨により、昭和9年以来の大洪水となり、死者8名、不明者4名、被災者18,000人の被害が発生。



氾濫流による洗掘状況(黒部市荻生地先)

●昭和44年8月11日洪水

- ・北陸地方に停滞した前線は、未曾有の豪雨をもたらし、黒部川では、昭和27年を上回る観測史上最大の大洪水となった。
- ・下流部の福島堤、南島堤などの堤防が破堤し、愛本堰堤本体のゲート及び取水施設の破壊、愛本橋も流出した。



破堤状況(入善町福島地先)

●平成7年7月洪水

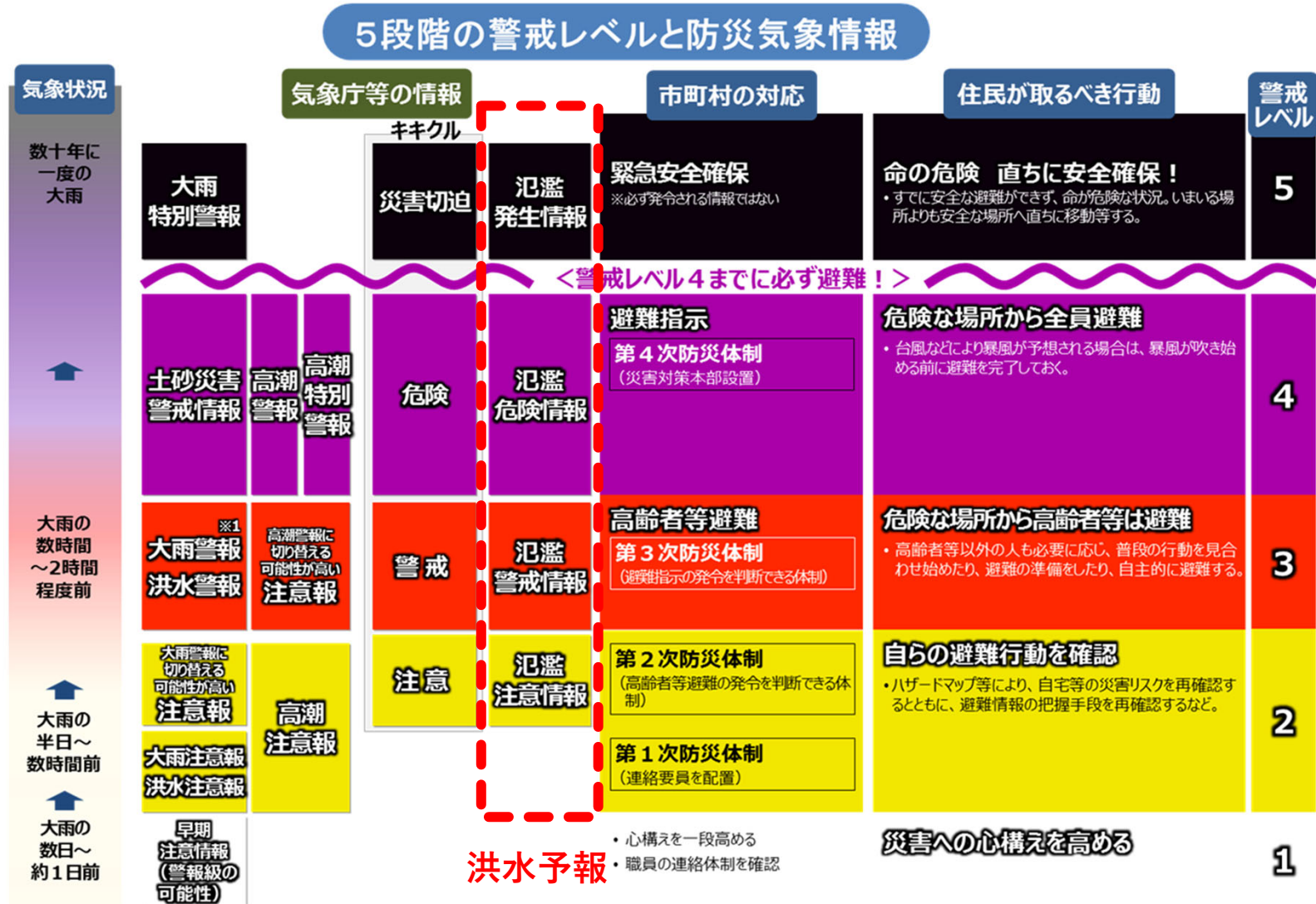
- ・北陸地方に停滞した梅雨前線が活発化、富山県東部や信越地方に局地的な豪雨をもたらした。
- ・上流部では大規模な崩壊が発生し、大量の土砂や流木が出し平ダムに流れ込み、黒部川中流域に大量の土砂が堆積した。
- ・黒部峡谷鉄道が寸断されるなど交通網や発電・観光施設に大きな被害が生じた。



寸断された黒部峡谷鉄道

2. 危険を伝える情報

河川の増水・氾濫の危険を伝える情報 ～警戒レベルと相当する防災気象情報～



※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

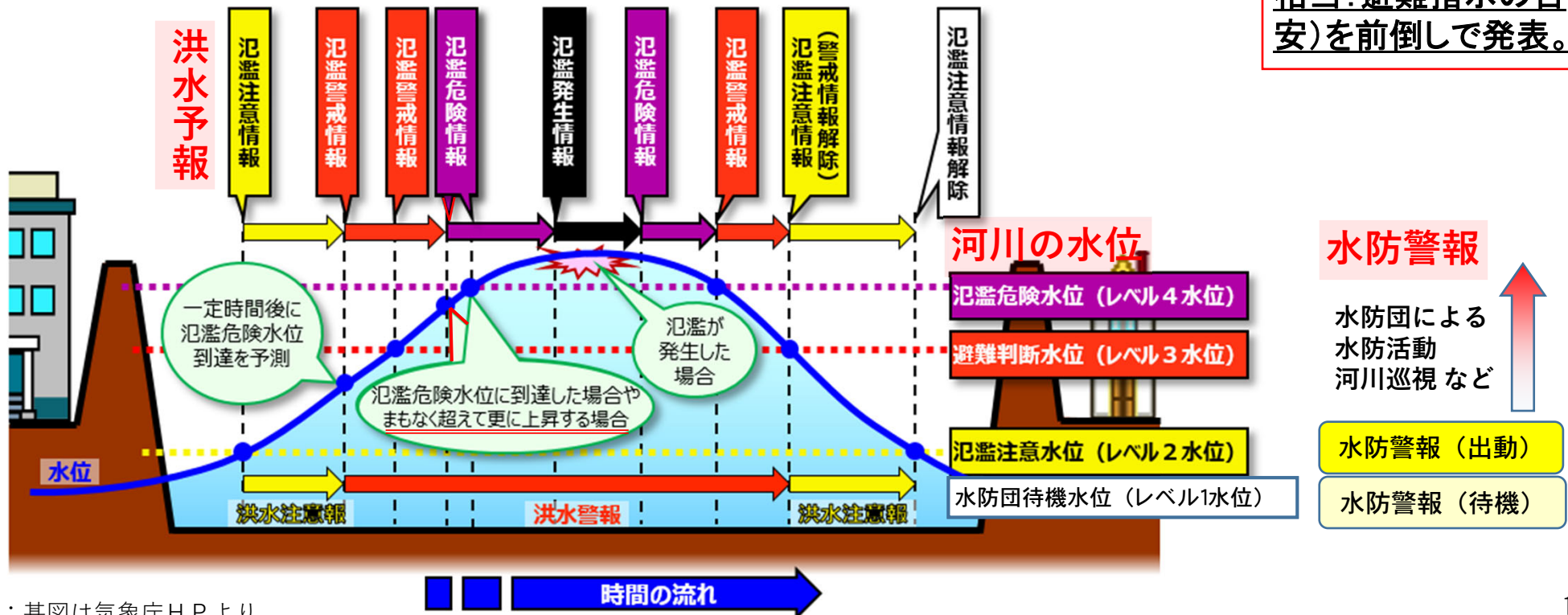
「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～指定河川洪水予報～

洪水予報の標題（種類）	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 （洪水警報）	氾濫の発生 （氾濫水の予報）	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
〇〇川氾濫危険情報 （洪水警報）	急激な水位上昇によりまもなく氾濫危険水位を超え、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位に到達した場合	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 【警戒レベル4相当】
〇〇川氾濫警戒情報 （洪水警報）	一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
〇〇川氾濫注意情報 （洪水注意報）	氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階 【警戒レベル2相当】

令和4年6月より、河川水位が氾濫危険水位に到達していなくても、まもなく（3時間先までの予測水位が）超えることが見込まれる場合には、**氾濫危険情報（レベル4相当：避難指示の目安）**を前倒しで発表。



管内における洪水予報等発表状況

■富山県内において、氾濫注意水位に到達し、洪水予報や水位到達情報を発表したのは、過去10年間（H24～R3）で48洪水・観測所

河川名	黒部川	常願寺川	神通川		井田川	熊野川	庄川		小矢部川			渋江川	合計
観測所名	愛本	大川寺	大沢野大橋	神通大橋	杉原橋	熊野川橋	小牧	大門	津沢	石動	長江	蓮沼	
H24											1		1
H25	2				1《1》			1	1	2	2		9
H26			1	1				1			1		4
H27								1					1
H28						1							1
H29	1			1	1《1》		1	2	1	2	3<1>		12
H30	1			1			2	2		1	2		9
R1						1		1		1	1		4
R2	1		1	1				1					4
R3			1	1				1					3
合計	5		3	5	2	2	3	10	2	6	10		48

数字は、年間を通して洪水予報等が発表された洪水の数

< >: はん濫危険水位に到達し「はん濫危険情報」を発表した洪水の数(内数)

《 》: 避難判断水位に到達し「はん濫警戒情報」を発表した洪水の数(内数)

3. 防災情報の入手方法

川の防災情報(国土交通省)

- 全国の河川水位、レーダ雨量、洪水予警報、ダム放流通知、河川カメラ画像などをリアルタイムで提供しているサイト。
- 浸水想定区域図、浸水ナビ、洪水ハザードマップポータル、防災用語ウェブサイトなどの防災情報も網羅。
- スマホからもアクセスが可能



<https://www.river.go.jp>

【川の防災情報】で検索

CLICK

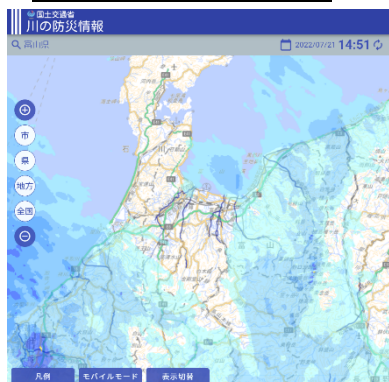
PC表示画面

スマホ表示画面

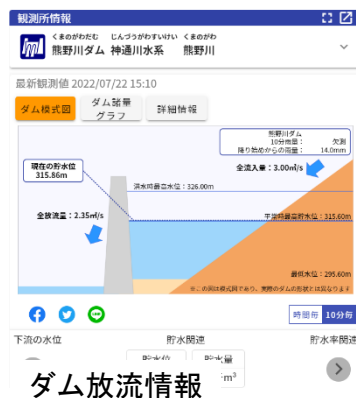
川の防災情報 掲載情報（一部抜粋）



リアルタイムの河川水位



レーダ雨量



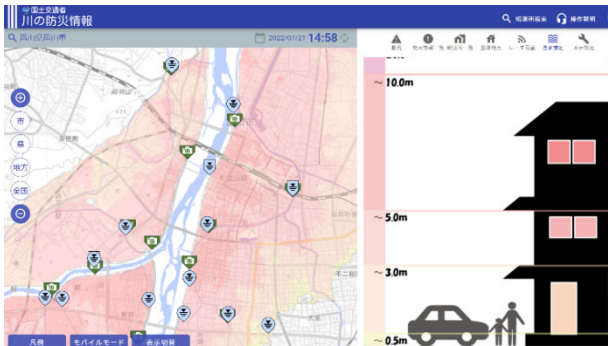
ダム放流情報



川のライブカメラ画像



避難情報（Lアラート）



洪水浸水想定区域図



「並べて見る」機能

レーダ雨量、洪水予警報、ライブカメラ画像、川の水位、洪水予報、ダム放流通知、キキクル、水害リスクラインなどの防災情報をリアルタイムで一覧表示可能

防災用語ウェブサイト（水害・土砂災害）



防災用語ウェブサイト

記者発表などで用いられる防災用語を図解入りで解説

防災気象情報(気象庁)

- 全国の天気・防災（気象情報・注意報警報、大雨・台風、キキクル（危険度分布）、地震・火山など）に関する情報を提供しているサイト
- 「あなたの街の防災情報」から、任意の場所（GPS対応）の様々な気象・防災情報をまとめてリアルタイムで表示
- スマホからもアクセスが可能



<https://www.jma.go.jp/bosai/>

【気象庁気象情報】で検索

CLICK

PC表示画面



スマホ表示画面



逃げなきゃコール



画面はイメージです。実際の画面と異なります。

登録エリア災害・避難情報メール

逃げなきゃコール

災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

逃げなきゃコール





「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

住民自らの行動に結びつく情報の提供・共有方法を充実させるために、情報を発信する行政と情報を伝えるマスメディア、ネットメディアにより立ち上がった「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」の一環として、令和元年5月から開始されました。現在は4社の参画により取り組みを進めています。



<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html>

アプリ・サービス例



私の住む地域と、おばあちゃんの住む地域を登録しよう。

※上記はアプリ例です。実際の画面とは異なる可能性があります。
※入手・登録方法については、各サービスの説明に準じてください。

① アプリ・サービスで、あなたと大切な人の住む地域を登録します



おばあちゃんの住む地域に「避難準備・高齢者等避難開始」が出る！

② もしもの時は、登録した地域の災害・避難情報の通知がとどきます



おばあちゃん、すぐに避難して！

③ 大切な人に電話で **逃げなきゃコール**



あつた！
急ぎまじよう！
よかった！
今、避難所に着いたわよ！連絡ありがとう。

④ 家族からの「逃げて！」で避難行動を

⑤ 安全な場所に避難完了

4. 合同記者会見の実施方針

「強大な台風発生のおそれの段階から、リスクコミュニケーションを展開」

国土交通省では、災害対策基本法の改正を受けて、災害発生のおそれ段階から、省を挙げたリスクコミュニケーションを展開するため、防災行動計画【第1版】を作成し、一人でも多くの方が円滑に逃げられるような社会の実現を目指します。（令和3年6月29日水管理・国土保全局防災課記者発表資料）

災害発生のおそれ段階における国土交通省の防災行動計画【第1版】について

別紙1

- 強大な台風の接近等、特別警報を発表する可能性がある場合に、政府は、災害発生のおそれ段階から災害対策本部を設置し、災害発生前であっても、国、地方公共団体、指定公共機関等が一体となって 災害応急対策を実施（令和3年5月20日施行 改正災害対策基本法）。
- ↓
- 国土交通省では、あらゆる関係者が連携して災害応急対策を実施する体制を構築するため、**災害発生のおそれ段階から、省を挙げたリスクコミュニケーション（住民等への的確な情報発信、避難情報を発令する市町村支援の充実、関係機関との連携強化等）を展開**することとし、今般、その防災行動計画【第1版】を作成。
 - 今後、強大な台風の接近等に当たっては、本計画に基づいてリスクコミュニケーションを実施するとともに、実際の災害対応で得た改善点を随時反映して計画の充実を図る。また、計画の実効性をさらに高めていくために、平常時におけるリスクコミュニケーションも強化。

<防災行動計画【第1版】における主なリスクコミュニケーション>

（【〇日前】は特別警報を発表すると想定される日までの日数）

住民等への的確な情報発信

- ・ 合同記者会見により、気象や河川に関する今後の見通し等を解説【4日前～】
- ・ 鉄道の計画運休の可能性など、交通に関する影響を発信【2日前～】
- ・ 交通機関の運休など、サービス停止の情報を発信【当日】

避難情報を発令する市町村支援の充実

- ・ 避難情報発令に必要な河川、砂防、海岸の情報の連絡体制（ホットライン）の構築【4日前】
- ・ 河川、砂防、海岸に関する今後の見通しを伝達【3日前～】
- ・ リエゾン、JETT、排水ポンプ車等を派遣【2日前～】
- ・ リエゾンやJETTが活動を開始、排水ポンプ車等を前進配備【1日前】

関係機関※との連携強化

- ・ 連絡体制の確保【4日前】
- ・ 所管施設の点検、備蓄状況の確認等の事前対応や災害時の的確な情報提供などを指示・周知・要請【4日前】
- ・ 「水際・防災対策連絡会議」等を通じた情報提供【3日前～】

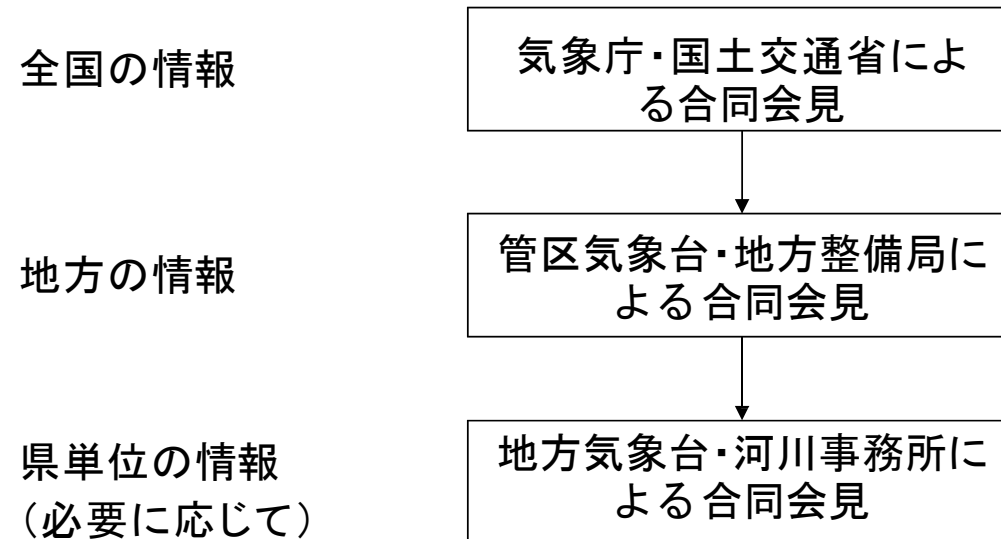
※ 都道府県、高速道路や空港・港湾など関係施設の管理者、交通や物流などの関係事業者等

合同会見の実施方針(案)

- 北陸地方において、大規模災害(前線停滞による大雨、大型台風接近、大雨特別警報等)が想定される場合に実施



合同会見の流れ



北陸合同会見(強大な台風など)の整理事項【新潟県・富山県・石川県】

1. 基本方針

- 合同会見は、「地方単位」で実施することを基本とする。ただし、必要に応じて「県単位」の合同説明会も実施できるものとする。
- 「地方単位」の実施は、新潟県・富山県・石川県のいずれかで開催条件に合致した場合とする。
- 「地方単位」の実施機関は、「整備局と新潟地方気象台」とする。
- 合同会見の実施時には、新潟会場、富山会場、金沢会場を設営し、それぞれの会場をWEB方式で接続する。
※新潟会場(整備局又は新潟地方気象台)、富山会場(富山河川国道事務所又は富山地方気象台)、金沢会場(金沢河川国道事務所又は金沢地方気象台)。
- 各県のマスコミは、各県の会場に集合するか、WEB方式で参加する。
- 「地方単位」の説明は、新潟会場において「整備局と新潟地方気象台」が説明する。
- 「地方単位」の説明終了後、「県単位」の合同説明会等が必要な場合は、「河川事務所と地方気象台」により各会場で引き続き実施する。

2. 開催条件

- 開催の条件として以下が想定される。ただし、この条件で必ず実施するものではない。

①おそれ本部設置

- ・4日前に本省庁合同記者会見が開催され、北陸管内(新潟県・富山県・石川県)でも、大雨特別警報発表の可能性や氾濫発生の可能性予想される場合。

※氾濫発生の可能性(レベル4相当:氾濫危険情報⇒氾濫危険水位超過)

②台風接近

- ・3日前の台風進路より、北陸管内(新潟県・富山県・石川県)でも、大雨特別警報発表の可能性や氾濫発生の可能性が予想される場合。

③前線停滞により大雨が想定

- ・北陸管内(新潟県・富山県・石川県)でも、大雨特別警報発表の可能性や氾濫発生の可能性が予想される場合。

④大雨特別警報発表

⑤氾濫発生(レベル5相当:氾濫発生情報)

⑥大雨特別警報の警報等への切り替え時

- ・切り替え時の水位が、レベル5相当(氾濫発生)・レベル4相当(氾濫危険水位)・レベル3相当(避難判断水位))

北陸合同会見(強大な台風など)の整理事項【新潟県・富山県・石川県】

3. 開催の時期

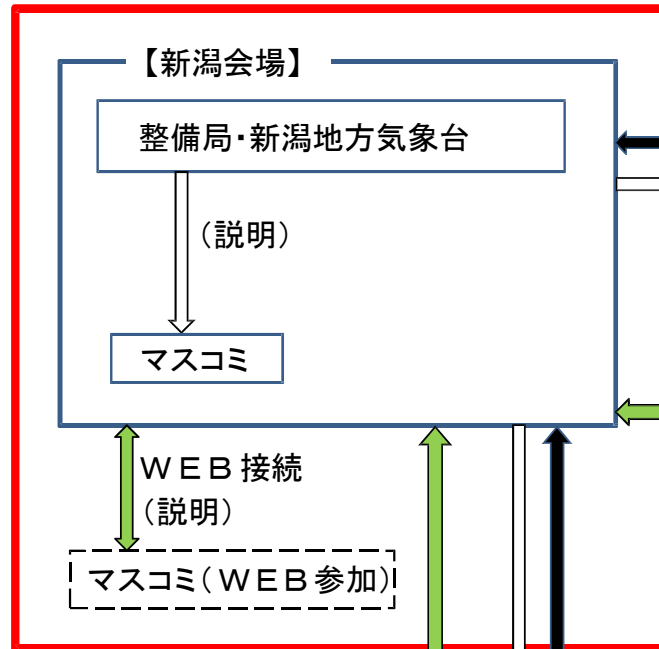
- 2日前:14時(平日に行うことを基本とするが、状況によっては休日もあり)
 - 1日前:14時(平日に行うことを基本とするが、状況によっては休日もあり)
 - 当日:随時(出来るだけ時間帯は配慮するが、深夜・早朝もあり)
 - 洪水中:随時(出来るだけ時間帯は配慮するが、深夜・早朝もあり)
- ※現時点の案としては、4～3日前は「資料配布(資料配布のみ)」とし、合同会見は想定していない。

4. 説明内容

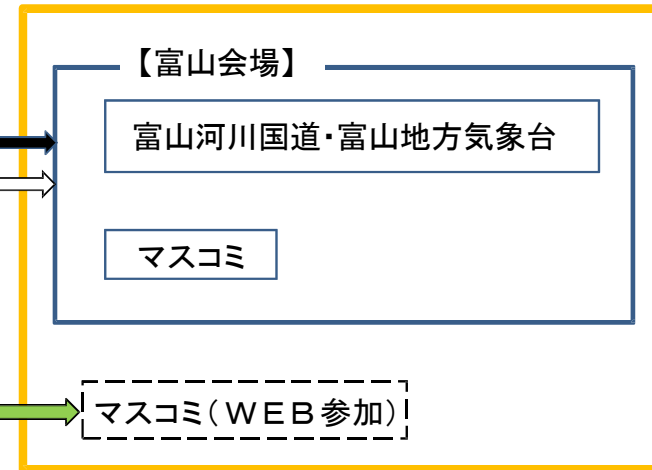
- 新潟地方気象台は、今後の雨の見通しと警戒事項を予定。(一例)
 - ・防災事項
 - ・天気図と気象衛星
 - ・予想天気図
 - ・その後の見通し
 - ・警報級、注意報級の予想時間帯
 - ・早期注意情報
 - ・情報の入手先など
- 整備局は、河川の情報と命を守るポイントを予定。
 - ・避難に活かすリスク情報(水位に応じた避難行動、水位(現況・予測)、カメラ映像、ハザードマップなど)
 - ※「川の防災情報」などの操作実演を含む
 - ・土砂災害に関する情報
 - ・ダムの事前放流
 - ・過去の洪水・浸水状況
 - ・防災留意事項

北陸合同会見（地方単位）のイメージ

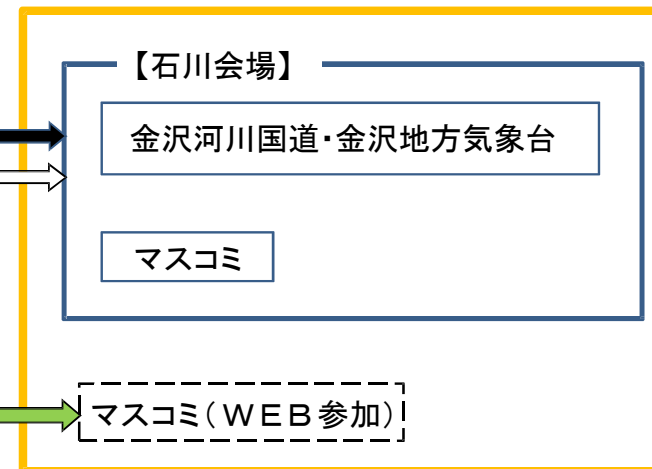
【新潟県】



【富山県】

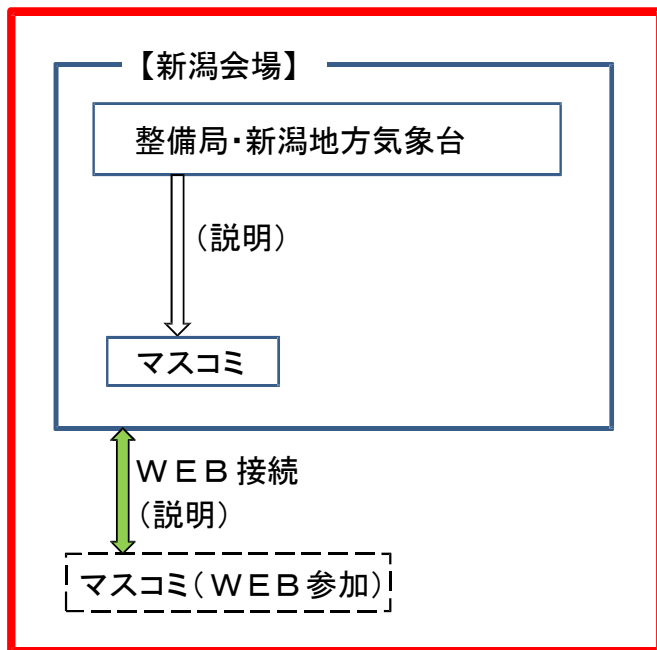


【石川県】

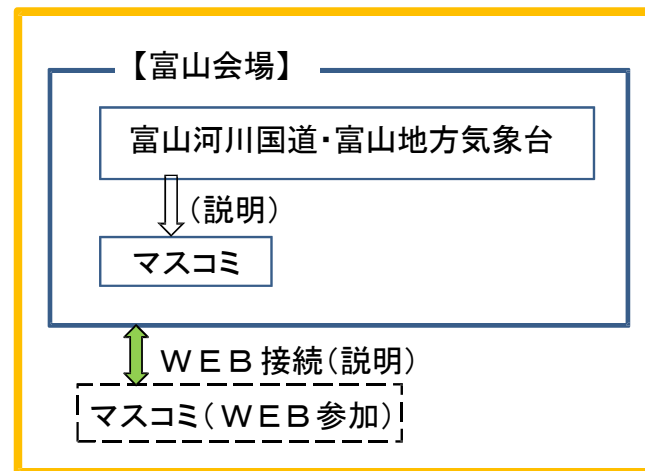


北陸合同会見（県単位）のイメージ

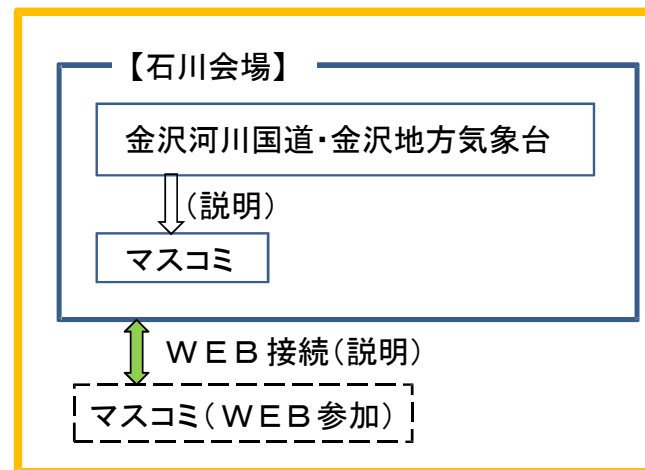
【新潟県】



【富山県】



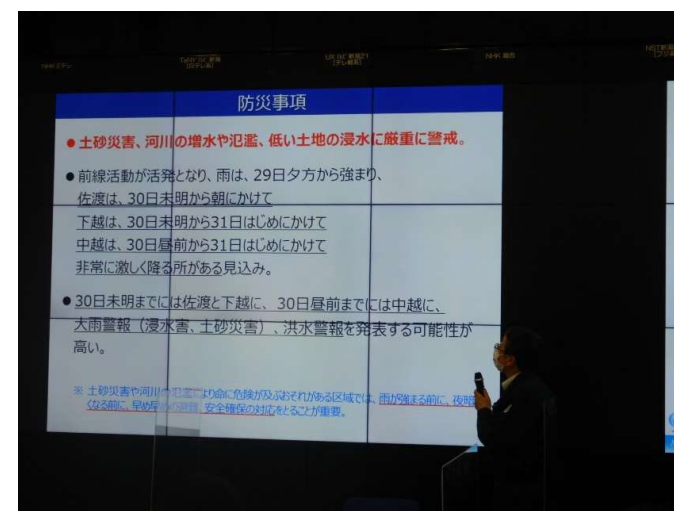
【石川県】



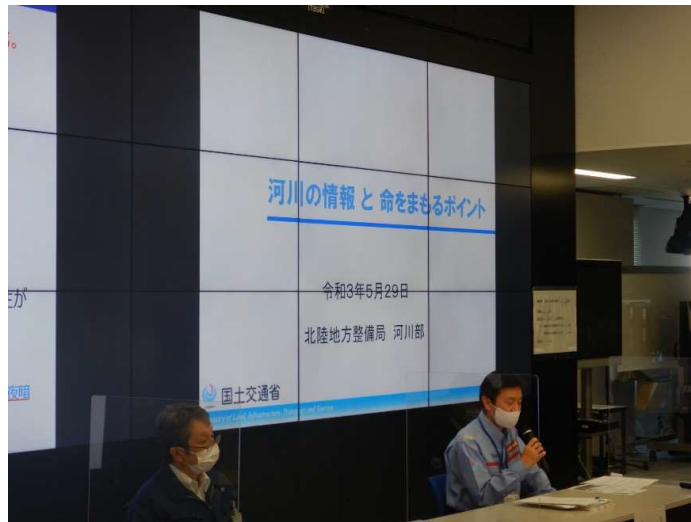
地方気象台の説明内容(案)



- 地方気象台説明内容(一例)
(今後の雨の見通しと警戒事項)
- ・ 防災事項
- ・ 天気図、気象衛星
- ・ 予想天気図
- ・ その後の見通し
- ・ 警報級、注意報級の予想時間帯
- ・ 早期注意情報
- ・ 情報の入手先など



地方整備局の説明(案)



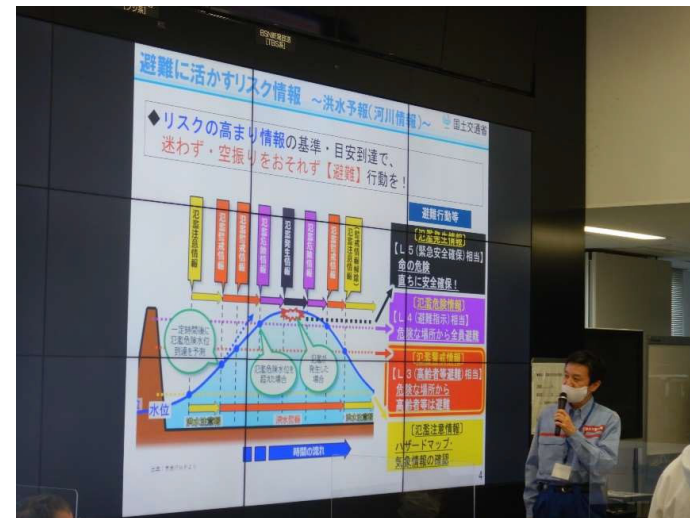
● 地方整備局の説明内容

(河川の情報と命をまもるポイント)

- ・避難に活かすリスク情報(水位に応じた避難行動、水位(現況・予測)、カメラ映像、ハザードマップなど)

※「川の防災情報」などの操作実演を含む

- ・土砂災害に関する情報
- ・ダムの事前放流
- ・過去の洪水・浸水状況
- ・防災留意事項



5. 道路情報：事前通行規制区間のお知らせ

富山河川国道事務所の事前通行規制区間

「事前通行規制区間」とは

大雨や台風による土砂崩れや落石等の恐れがある箇所について、過去の記録などを基にそれぞれ規制の基準等を定めて、災害が発生する前に「通行止」などの規制を実施する区間です。

- ・現在、富山河川国道事務所管内の事前通行規制(雨量規制)区間は、4路線5区間です。

図-1 雨量規制区間位置図



表-1 事前通行規制区間と近年の実績

路線名	区 間	距離標	延長 (km)	規制条件	危険内容	指定 年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 R1	R2	R3
				基 準 値											
8	富山県小矢部市安楽寺 石川県河北郡津幡町九折	293.6 ～ 295.2	1.6	連続雨量 180mm	土砂崩落	S44	1								
41	富山県富山市猪谷 富山県富山市片掛	221.9 ～ 223.5	1.6	連続雨量 120mm 雪崩発生が予想されるとき	落石等 雪崩	S44	2				1	1	1		1
156	富山県砺波市庄川町小牧 富山県砺波市庄川町金屋	191.7 ～ 194.2	2.5	連続雨量 150mm 雪崩発生が予想されるとき	土砂崩落落石等 雪崩	S50	2				2	1	1		
160	富山県氷見市中波 富山県氷見市宇波	21.2 ～ 26.9	5.7	連続雨量 160mm	土砂崩落 落石等	S48	2				1				1
160	富山県氷見市宇波 富山県氷見市藪田	26.9 ～ 29.2	2.3	連続雨量 140mm	土砂崩落 落石等	S48	2				1				1